

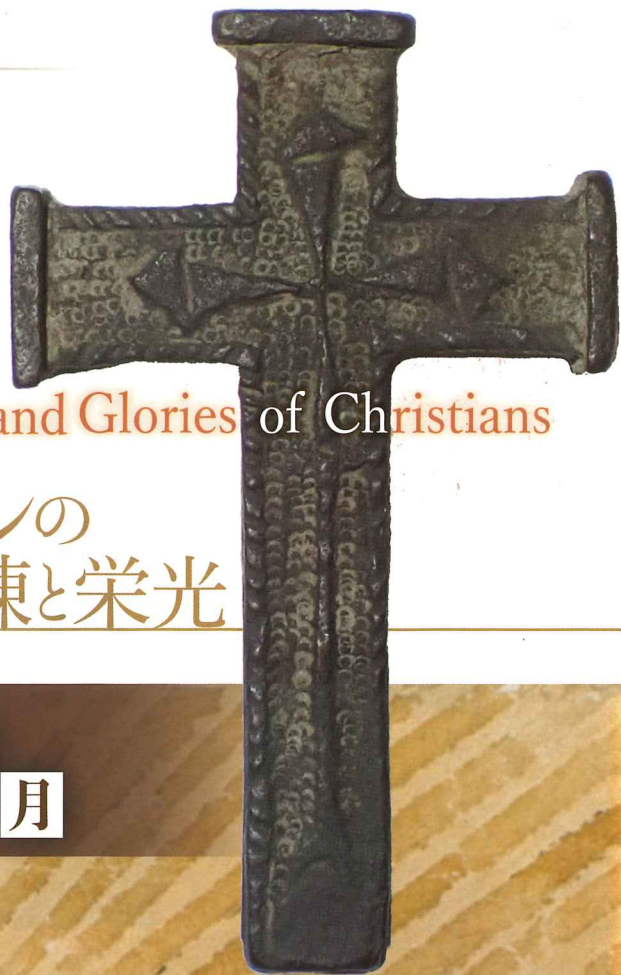
長崎の元和の大殉教 400周年

信仰の

Testimony of Faith: The Hardships and Glories of Christians

あかし

キリシタンの
試練と栄光



2022 10/5 水 ▶ 2023 1/9 月



み教えまもりて おおしきかな
いのち献げし 遠つみ祖
み国にあげられ 栄えのかむり
かがやきまして ほまれぞ高し
『日本殉教者』『カトリック聖歌集』1966年



大浦天主堂 キリシタン博物館
Nagasaki Oura church - Christian Museum

〒850-0931 長崎市南山手町5-3 <https://christian-museum.jp/>

TEL 095-801-0707 FAX 095-801-0708 休館日 年末年始(12月31日・1月1日・2日)

開館時間 8:30~18:00 (最終入館17:30) *11月1日からは17:30 閉館(最終入館17:00)

主催 カトリック長崎大司教区、NPO法人世界遺産長崎チャーチトラスト

入館料 *()は20名以上の団体料金 *企画展の入場料は、入館料に含まれます

(900円) 大人1,000円 / (300円) 中学生400円 / (200円) 小学生300円

日本のキリスト教の歴史は、聖フランシスコ・ザビエルによって信仰の種が蒔かれたことに始まります。全国で多くのキリシタンが誕生した後、禁教という苦難の時代に入り、潜伏して信仰を維持することでその実りを待つことになりました。

その間、死によって信仰の証^{あか}し人になった殉教者がいました。禁教下の苦闘を乗り越え、日本に潜入して教えを説いた宣教師たち。肉体は死んでも靈魂は永遠に生きることを信じたキリシタンたち。殉教事件が多発した元和期(1615-1624)のなかでも、1622年に長崎で起こった殉教事件は最も大規模なものです。彼らの証は、キリスト者の手本として列福されることで世界に広く知られ、我々の記憶に刻まれました。

本展覧会では、殉教400周年を契機として、彼らの殉教と、殉教者たちの証を糧としたキリシタンの信仰を紹介します。また、その証は現代においては祈りや聖歌のなかで伝えられており、殉教図を含めた顕彰の取り組みも紹介します。展示を通して、苦難のなかで信仰のもとにこころをひとつにした、彼らの証に思いを馳せていただければ幸いです。

主な展示資料



十字架形聖遺物入れ
17世紀頃
(大浦天主堂キリシタン博物館)



“キリシタンの聖遺物”
お土産
(堂崎天主堂キリシタン資料館)

元和の大殉教の証し人

日本人最初の司祭 木村セバステイアン

1601年に日本人として初めて、にあばらリスとともに司祭に叙階されました。イエズス会司祭として九州を中心に布教に尽力し、元和の長崎の大殉教において、信徒の模範となるような輝かしい殉教を遂げています。

平戸に生まれ、幼い頃からイエズス会に育てられた木村セバステイアンは、12歳から教会に奉仕、1580年には有馬のセミナリヨに学び、1582年にイエズス会に入会しました。

先祖はフランシスコ・ザビエルから洗礼を授かった信徒であり、親族もまた殉教を遂げています。



セシル＝マリー・トレル
《長崎の元和の大殉教図》1870年

殉教者の列福を記念して、プチジャン司教が制作を依頼したと推測されています。2017年まで大浦天主堂内に掲げられていました。